

2025年度 セルフジャッジの方法

《 セルフジャッジ5原則 》

- 1 判定が難しい場合は「グッド」（相手に有利に）
- 2 「アウト」「フォールト」はボールとラインの間に、はっきりと空間見えたとき
- 3 サーバーがサーブを打つ前にレシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンス
- 4 ジャッジコールは、相手に聞こえる声と相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに
- 5 コートの外の人には、セルフジャッジへの口出しはしない

- ① スポーツマンシップにのっとり、自分のベストを尽くし、フェアプレイに徹しましょう。
 - ② プレーヤーは、試合前と試合終了後に、相手をリスペクトして握手で挨拶しましょう。
 - ③ ウォームアップ前にトスをし、エンド、サーバー/レシーバーを決めます。
 - ④ サーバーはサーブを打つ前スコアをアナウンスし、プレーヤー同士スコアを確認する。
 - ⑤ 判定とコールは相手にはっきりわかる声とハンドシグナルで、着地後速やかに行う。
ダブルスの判定とコールは1人のプレーヤーが行えば成立する。食い違った場合は、そのペアの失点。
ただし、ネット、ストラップ、バンドに触れたサービスの判定（フォールト、グッド）が
食い違った場合は「サービスのレット」となる。
 - ⑥ インプレー中、他コートからボールが入って来るなどの妨害が起こった場合「レット」とコールし
そのポイントをやり直す。ただし「レット」コール前に打たれたボールが相手コート内に正しく
入らなかったり、明らかなウィニングショット・エースの場合は、ポイント成立。
 - ⑦ ラケット以外の着衣・持ち物を相手コート以外の地面に落とし、相手プレーヤー・チームが妨害を
受けたと判断した場合、1回目の時は、「レット」コールしポイントをやり直し、2回目以降は
失点する。落とし物をしたプレーヤー・チームは「レット」コール出来ない。
 - ⑧ スコアがわからなくなった時は双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降の
プレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開。（ゲームスコアも同様に処理）
再開するときのエンドとサーバーは、合意されたスコアに準ずる。（ゲームスコア訂正の場合は
次の順のサーバーに交代（同じプレーヤーが2ゲーム連続でサーバーになれない）
 - ⑨ 次の場合、速やかに審判員に申し出る。（許可なく勝手にコートを離れない）
 - a 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れる時
 - b 相手プレーヤーの言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服がある時
 - c プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こった時
 - d プレー中にけがをして治療したい時、これ以上プレー出来ないのでリタイアしたい時
 - ⑩ 各判定の権利者
 - a 「フォールト」「アウト」「グッド」は、ネットから自分側のプレーヤー・チーム
 - b 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレーヤー・
チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。
 - c 「フットフォールト」は、レフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイア
 - ⑪ インだったボールを誤って「アウト」「フォールト」とコール（ミスジャッジ）したとしても
「グッド」に訂正し返球が正しく相手コートに入った場合、1回目は故意ではない妨害とし、
ポイントレットにする。2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
 - ⑫ 対戦相手からの故意の妨害は、妨害を受けたプレーヤー・チームからの申し出により審判員が判断。
妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とは見なされない。
- ※ いかなる電子機器も使用できない（スマートウォッチなど）。電動ファン・電動ファン付きベスト・
ジャケットは各エンドチェンジ時、セットブレイクの時間内に限り使用できる。